

研究協力に関するお願い

Effect on reading fluency improvement by rapid reading training of hiragana nonsense character strings in children with developmental dyslexia.

(発達性読み書き障害のある児童における無意味文字列の速読訓練による音読流暢性改善の効果)

NPO 法人 LD・Dyslexia センター 理事長 宇野彰

研究の目的：発達性ディスレクシアのある方々の症状や困難さの一つに、音読速度の遅さがあります。音読速度は読解の遅さにつながるため、試験時間の延長が合理的配慮の一つとして実施されることが少なくありません。もし、音読速度の遅さが軽減して速く読めるようになるのであれば、配慮が必要なくなり、自力で読むことが楽になるはずです。そこで、NPO法人LD・Dyslexiaセンターでは、無意味文字列の速読練習をすることにより、発達性ディスレクシアのある子どもたちの困難さを軽減してきています。本研究の目的は、今までの臨床の結果を集計することにより、無意味文字列速読練習の効果を、音読速度の変化を計量的にかつ心理（主観）的に検証することと、どのような子どもに適用できるのかを検討することです。

意義：開発した音読速度を促進させる方法が、もし科学的にも心理的にも効果的である場合には、研究結果内容を公開することにより日本語話者の発達性ディスレクシアのある子ども達へのトレーニング方法として各地で使われることが予想される。その結果、発達性ディスレクシアのある子どもたちの困難さが軽減される可能性がある。また、他の言語圏の発達性ディスレクシアのある方々へのトレーニング方法の参考になる可能性があります。

研究方法

(研究1) 読み書きの困難さを主訴としてNPO法人LD・Dyslexiaセンターに来所し、読み書きのトレーニングを受けている、もしくは受けていた児童で、速読訓練を小学3年生か4年生に開始した児童を対象としました。記録されている臨床カルテをさかのぼり、訓練開始の時期および訓練開始3ヶ月後ごとの速読検査記録を1年半後まで収集します。収集したデータを春原ら（2011）の典

型発達児のデータと比較し分散分析にて検討します。また、個別にはScruggs & Mastropieri (1998) の手法に基づき、個人内での変化を検討します。

(研究2) 研究1と同じ対象者および保護者に半構造化面接を実施します。実施方法としては、対面形式およびオンラインを用います。質問内容は、練習は大変であったか、速く読めるようになったと思うか、など主に心理的な側面からの質問項目です。

研究期間 「NPO 法人LD・Dyslexia センター研究倫理審査委員会」での承認後から2027年3月31日までとします。

倫理的配慮 NPO 法人LD・Dyslexiaセンター研究倫理審査委員会にて審査し、承認を得た後に実施いたします。対象者と保護者に対して口頭および書面で伝え、参加の意思が確認された場合に実施します。NPO 法人LD・Dyslexiaセンターのホームページで伝え、ホームページに掲載された不承諾書あるいは電話、メール等による不参加の意思が確認されない場合に実施します。

通常の臨床時の評価で使用している課題のデータを使用するため、肉体的、精神的負担はないと思われまふ。参加は自由であり、途中でいつでも中止できること、参加しないことによって一切の不利益を被りません。データは匿名化して取り扱ひ、紙はpdf化し、研究者以外にアクセスできないLD・Dyslexiaセンター内のパスワードのかかるクラウド上に保管します。データは5年間保管しその後、復元不能な状態で廃棄します。

研究結果の公表 研究終了後、速やかに学術集会で発表、論文誌に投稿する予定です。

不同意の場合 添付の不承諾書のメールでの送信、もしくは電話、e-mailのいずれかの手段にて、4月30日までに同意されない旨をお知らせいただけますようお願いいたします。

連絡先 〒272-0033 市川市市川南3-1-1 アプロード市川315号
TEL 047-326-5006, FAX 047-326-5006,

e-mail: LDDX2004@hotmail.com

宇野彰